



平成 30 年度 事業報告書

特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

Dance Camp @城崎国際アートセンター/

ダンサーのための実践的パフォーマンス・ワークショップ

観客に「とにかく、観たい！！」と思わせるパフォーマンス力・身体表現能力はどのように身につけることができるのでしょうか？そのためのひとつの取組みとして、今回は、コンテンポラリーダンスの視点から、複合的な舞踊のフォームやテクニクの様式美に習い、日本人の体形に即した独自のパフォーマンス力を身につけるため、4つのキーを設け、適した講師陣を招き「実践的ダンス・ワークショップ」を開講します。

城崎国際アートセンター(KIAC)にて、合宿形式で生活を共にしながらワークを行うことによって、集中的に参加者が互いに刺激し合いながら取り組む機会とします。

【Aコース】期間:12/1(土)集合日～12/8日(土)解散日

①「動きの解像度を上げる～バッハ「フーガの技法」を踊る」講師:寺田みさこ

バレエやモダンダンスなどのテクニックをウォームアップとして日々行いますが、それらの型の習得を、実際に振付作品を踊るときに活きたダンス・テクニックとして活用できるよう、各々の身体に則した翻訳方法を探っていきます。その後、いくつかの短い動きのセンテンスを体験していく中で、個々の動きのフォームや質感・速度などを徹底的に微細に分析し、動きの解像度を上げていきます。更にそのことによって空間にどのような変化をもたらすことができるのかを探りたいと思います。最終的にバッハ「フーガの技法」に私が振付した作品の一部を踊ってもらいます。

②「コンテンポラリーダンサーが日本舞踊の古典作品を踊ってみる」講師:余越保子

芸術を志す者は、常に新しいものへと駆り立てられています。歴史を振り返ることで発見することはたくさんあります。私は、縁あって日本舞踊を習うようになり、実際に自分のカラダで名作を踊ってみると、それは発見と驚きの連続でした。京鹿の子娘道成寺「島の千歳」「藤娘」など、古典作品は発想の転換、構成の緻密さ、自由奔放な世界観、鮮やかな時空の扱いが見事です。それは、独舞のダンスのお手本にもなります。コンテンポラリーダンサーにも踊れる古典舞踊があってほしい。その強い思いもあり、日本舞踊の古典作品を踊ってみる機会を持ちたいと思います。

【Bコース】期間:12/15(土)集合日～12/22(土)解散日

①「音楽にIN OUT」講師:康本雅子

私は踊っているとき、音楽とSEXしている。音楽に図文とは言って行って知らない感覚におぼれたい。自分の身体を忘れたい。突っ込み突っ込まれながら時には奴隷になるのも厭わない、でも操る事も忘れない。言うまでもなく音楽はそれだけで完結している。ダンスなんか必要としていない。だからこそそれを使うときは絶対に、音楽が一瞬間こえてこなくなる位ダンスが見えてこなきゃ駄目だ。動いてるだけじゃダンスにならない。イかないとダンスが咲かない。て、な、訳で、音楽に振り付けるってどういう事か。を検証しては訓練します。

②「舞踏の身体訓練～金粉パフォーマンス」講師:みずのりつこ

戦後、欧米の身体の捉え方を踏襲し、構築してきた日本のコンテンポラリーダンサーが、今舞踏訓練を経験することは、未来を踊っていく舞踊家として、身体的概念を広げる好機となると信じます。今回は、舞踏の身体訓練から始め、“ふりをする”のではなく、“そのものになる”踊りを演習します。鶏、獣、木、婆などの舞踏のエチュードから、舞踏創設期に振付けられ1980年から90年代にかけて、実際に踊られていた金粉パフォーマンスを踊る機会もつくります。

■主催: NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)

■協力: 城崎国際アートセンター(豊岡市)、NPO 法人ダンスボックス

■受講料: A/B 各3万円、宿泊は提供、交通費は各自負担。 予算: 参加費で賅う。

【DOCUMENT Dance Camp !】

昨年 2018 年 12 月<ダンサーのための実践的パフォーマンス・ワークショップ>Dance Campを城崎国際アートセンター(KIAC)で開催。その取り組みを参加者による実演や公開稽古としてショーイングします。(2019 年 3 月 21 日(木・祝)京都芸術センター 13:00-16:30 終了予定)近年、コンテンポラリーダンサーは、演劇や美術・文学など多ジャンルの作家・振付家との共同作業の機会が増え、それに対応できる能力が求められるようになってきました。そのために、パフォーマンスの豊富なボキャブラリーや、作品への理解力・対応力を身体表現としてアウトプットできるスキルが必要となってきました。そのニーズに近づくため 4 名の講師による独自のダンスの指導方法で、スペシャルなワークショップを行いました。そこでは何を目的に何が行われたのか、その結果、ダンサーはどのように自らの身体と向き合い、何を発見したのか。昨 12 月 KIAC で取り組んだ果敢な試みを講師と受講者がプレゼンテーション・公開稽古・実演などを交え紹介します。

【2019 年 3 月 21 日(木・祝) 京都芸術センター 講堂 開場 12:45

1 部 13:00~14:45 A コース(講師:寺田みさこ/余越保子)

2 部 15:00~16:30 Bコース(講師:康本雅子/みずのりつこ)

1 部 13:00~14:45 A コース(講師:寺田みさこ/余越保子)

①講師によるプレゼンテーションと公開稽古

「動きの解像度を上げる〜パッサ「フーガの技法」を踊る」講師:寺田みさこ

アシスタント:佐藤健太郎参加

ダンサー:乾光男 川瀬亜衣 後藤禎稀 渋谷陽菜 はにおか ひさこ 藤原美加 山野邊明香

②「コンテンポラリーダンサーが日本舞踊の古典作品を踊ってみる」講師:余越保子

講師によるプレゼンテーションと実演

出演:藤原美加 渋谷陽菜 山野邊明香 12 月の WS 参加者 7 名のうち 3 名が実演します。

2 部 15:00~16:30 Bコース(講師:康本雅子/みずのりつこ)

① **公開稽古「音楽に IN OUT」講師:康本雅子**

参加ダンサー:唐津佐和子 小薮友奈 関珠希 泊舞々 畑中良太 吉川なの葉

12 月の WS 参加者 13 名のうち 6 名が参加します。

②講師によるプレゼンテーションと実演

「舞踏の身体訓練〜金粉パフォーマンス」講師:みずのりつこ アシスタント:本原章一

出演:唐津佐和子 小薮友奈 関珠希 泊舞々 畑中良太 吉川なの葉

鯨髭・J・タナロア クロスフォード・藤田 マヤブルー華邊瑠

12 月の WS 参加者 13 名のうち 6 名、研修生 4 名のうち 3 名が実演します。

■入場料:無料 ■観客数:85 人

■主催:NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

■共催:京都芸術センター Co-program 2018 カテゴリー D「KAC セレクション」採択企画

■協力:城崎国際アートセンター(豊岡市) / NPO 法人 DANCE BOX

3. 海外との交流・ネットワーク作り

JCDN 国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクト VOL.8

日本/香港 アーティスト・イン・レジデンス共同制作プログラム

香港から招聘した振付家・ダンサー・映像作家と、日本人振付家・演出家・美術家・パフォーマーと共に、個々のアーティストのバックグラウンドや、これまでの作品制作へのアプローチを活かしながら、宮古島・香港のレジデンスで、それぞれの自然・歴史・芸能・そしてそこに住む人々と交流しながら、リサーチ&クリエイションを行いました。香港と日本の振付家・演出家の視点からの共同リサーチが、今回のレジデンスには必要な創作要素となりました。宮古島では地域の音楽家・芸能家と、香港では広東オペラ役者や、古典音楽家、作曲家などと、レジデンスアーティストが互いのワークショップを行い、作品制作に取り組む交流プログラムを実施した。

香港アーティスト: Hugh Cho、Steve Ng Chung Wa(振付家/ダンサー)、Wong Fei Pang(映像作家)

日本アーティスト: 阿児つばさ(美術家)、川口智子(演出家)、塚原悠也(パフォーマー)

<事業内容>

■日本での滞在制作の場所は沖縄県宮古島で行い、11月2週間実施。香港から3名の振付家・音楽家・ダンサーを招聘し、日本人振付家・演出家・美術家と滞在制作を行った。

宮古島独自の芸能クイチャーの継承とそれを未来へ繋いで行くことを目的としているクイチャーフェスティバル実行委員会代表と、宮古島の先祖からの教えを現代に伝えることを目的にする<宮古島創作芸能団 んきやーんじゅく>主宰の前里昌吾さんに現地のコーディネーターをお願いし、宮古島の文化歴史・芸能・人々と、滞在参加アーティストの交流を図った。宮古に現存し現在も活躍中の素晴らしい芸能家からの講義や交流する機会つくるなど、AIR滞アーティストがこの滞在地でしか得られないプログラムを実施。

■滞在期間中には国際交流の文化事業の機会が少ない宮古島の小学校へアウトリーチ活動としてワークショップ実施。

■香港の西九龍文化区(West Kowloon Cultural District /ウェスト・カウルーン・カルチュラル・ディストリクト)と協力し、日本・香港で双方向のイーブンな条件でのエクスチェンジ・ダンスプログラムを2019年2月香港で実施。宮古島に引き続き、香港でのリサーチとクリエイションを実施。最終日、香港ダンスカンパニーのスタジオをブラックボックスにし、途中経過発表を実施した。

① 小学校へのアウトリーチ活動

宮古島市立久松小学校 6学年 2クラス合計54名 1日1回 (11/21)

アーティスト自身の作品や活動紹介、ダンス作品や映画を創作する過程などを紹介。また、グループに分かれ島をつくり、あいさつの言葉をつくるゲームを行い、新しい言葉を小学生が考案するなど、創造する試みを行った。

② 滞在制作作品の成果発表 宮古島/香港

宮古島でのリサーチ、滞在制作の成果をアーティストがプレゼンテーションを行った。

出演: 香港招聘アーティスト・日本人アーティスト 計6名

宮古島 2018年11月28日 1回 会場: 宮古市友利エコハウス 入場者数 45名

香港 2019年2月26日 1回 会場: 香港ダンスカンパニー 8F プラットホーム 入場者数 62名

■平成30年度文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業

■主催: NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

■共同コーディネーター: 香港: 西九龍文化区管理局 舞台芸術舞踊部門/宮古島: 宮古島創作芸能団 んきやーんじゅく

■予算: 200万円

4. 文化芸術による被災地の復興支援

三陸国際芸術祭 2018

これまで三陸国際芸術祭は、NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)の主催で行ってきました。しかし5年目を迎えるにあたって、未来に向けて、三陸の各自治体と共に歩んでいけるような実行委員会を組織したほうが良いのではというアドバイスのもと実行委員会を形つくるために、北は八戸市から南は陸前高田市までの15市町村をスタッフと共に何度も回りました。結果7月に準備委員会の開催、11月5日に、無事に11市町村、岩手県広域振興局および民間6団体、計18団体による『三陸国際芸術推進委員会』が発足。委員長を三陸鉄道株式会社の中村社長に引き受けていただき、副委員長を、大船渡市長と宮古市長に担っていただくことになりました。

この推進委員会の発足により、三陸全域での、三陸国際芸術祭の実施が現実化することになりました。今年度の開催地は、八戸市、階上市、久慈市、田野畑村、宮古市、大槌町、住田町、大船渡市、そして同時に開催されたアジアセンター主催の「三陸×アジア」にて気仙沼市、陸前高田市も加わり、三陸沿岸10市町村での開催となりました。

これまで三陸国際芸術祭は、夏から秋に野外を中心に開催してきましたが、今年度はじめて2月・3月という冬開催への挑戦となりました。当初は、寒くてどうなるだろうと心配していましたが、屋内で行われた公演や交流、体験は、外が寒いだけにより屋内で熱く、深いプログラムになったように思います。

今年度アジアからの芸能団体は、初来日のインドネシアの郷土芸能にあたる“ジャティラン”を2団体招聘しました。2団体とも、各地で大変評判がよく、かつ三陸各地の郷土芸能団体や子供たちととても良い交流の時間を持つことが出来ました。各地で、今度は自分たちがインドネシアに行って、芸能団体と交流したいという多くの声を聴きました。

<活動内容>

■2018年7月17日 三陸国際芸術推進委員会準備会

会場:盛岡地域交流センター マリオス

議題:三陸国際芸術推進委員会(仮称)の設立、体制、規約(案)について

2018年度事業について/2019年度事業について

今後のスケジュールについて

出席:八戸市、宮古市、大船渡市、岩手県(沿岸、県北広域振興局)、三陸鉄道株式会社、公益社団法人全日本郷土芸能協会、NPO 法人いわてアートサポートセンター、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、NPO 法人震災リゲイン、一般社団法人アーツグラウンド東北、東北文化財衛執研究所、みんなのしるし合同会社

(オブザーバー)国際交流基金アジアセンター、岩手県三陸防災復興プロジェクト 2019 推進課、公益社団法人企業メセナ協議会、シネマ・デ・アエルプロジェクト

■2018年11月5日 三陸国際芸術推進委員会設立総会

会場:盛岡地域交流センター マリオス

議題:規約(案)について/役員等の選任について/事務局の選任について/2018年度事業計画(案)および収支予算(案)について/議事録署名人の選任について

出席:八戸市、久慈市、宮古市、大船渡市、階上町、岩泉町、山田町、大槌町、普代村、田野畑村、岩手県(沿岸、県北広域振興局)、三陸鉄道株式会社、公益社団法人全日本郷土芸能協会、NPO法人岩手アートサポートセンター、NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、NPO法人震災リゲイン、一般社団法人アーツグラウンド東北、東北文化財研究所、みんなのしるし合同会社(オブザーバー)釜石市、陸前高田市、洋野町、国際交流基金アジアセンター、学校法人岩手医科大学、株式会社ニッセイ基礎研究所、公益社団法人企業メセナ協議会

■2018年11月5日 三陸国際芸術推進委員会運営委員会

会場:盛岡地域交流センター マリオス

議題:2018年度事業について

出席:八戸市、久慈市、宮古市、大船渡市、階上町、岩泉町、山田町、大槌町、普代村、田野畑村、岩手県(沿岸、県北広域振興局)、三陸鉄道株式会社、公益社団法人全日本郷土芸能協会、NPO法人いわてアートサポートセンター、NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、NPO法人震災リゲイン、一般社団法人アーツグラウンド東北、東北文化財研究所、みんなのしるし合同会社(オブザーバー)釜石市、陸前高田市、洋野町、国際交流基金アジアセンター株式会社ニッセイ基礎研究所、公益社団法人企業メセナ協議会

■三陸国際芸術祭

◎2019年2月9日～11日 宮古

三陸国際芸術祭オープニング / 「ダンス借景」映像展 / 観て習う三陸芸能!! /

第11回みやこ郷土芸能祭×三陸国際芸術祭 / 五十集余情×三陸国際芸術祭 / 三陸芸能列車

参加団体:牛伏念仏剣舞、川内鹿踊、北上翔南高校鬼剣舞部、小沢獅子踊り、花輪鹿子踊り、末角神楽、クリンチン・マニス、中村蓉、中村駿

観客数:約1,000名

◎2019年2月22日～24日 八戸

習いに行くぜ!東北へ!! / ダンス幼稚園 in こどもはっち / ヘッドドレス作りワークショップ /

マチニワ公演 / 南部会館公演

参加団体:市川神楽、鮫神楽、松森町津軽獅子舞、ニュースグス・グデュッルッ、ヴィヴィアン佐藤

観客数 :約600名

◎2019年3月1日～3日 大船渡

前夜祭・大交流会 / 大船渡駅前劇場 / 大船渡まるごと芸能体験館×三陸国際芸術祭 /
巨石装置五本松 伝播 / 習いに行くぜ!東北へ!!番外編 / 語り部+まち歩きツアー
アジア 神々の系譜 ～すべてが民俗になる～(連携プログラム、3月10日)

参加団体: 赤澤鎧剣舞、石橋鎧剣舞、金津流浦浜獅子躍、仰山流笹崎鹿踊り、扇流糸びす太鼓、永浜鹿踊り、甫嶺獅子舞、前田鹿踊り、ニュースグス・グデュルツ、赤丸急上昇、中西レモン

観客数 : 約 1,000 名

◎ジャティラン 三陸縦断の旅

2月11日 田野畑村/2月13日 大槌町/2月25日 階上町/2月26日 久慈市/2月28日 住田町

参加団体: 菅窪鹿踊・剣舞、甲地鹿踊り、大槌町虎舞協議会、赤保内小学校、赤保内駒踊り、夏井中学校、夏井大梵天神楽、五葉山火縄銃鉄砲隊

観客数 : 約 550 名

◎2019年3月2日～3月24日 三陸×アジア

未来との対話, 三陸とインドネシア / DOOR to ASIA / 気仙: アートとライフをここに持ち寄る /
HANDS! Hope and Dream - for みやこ / シネマ・デ・アエル × 国際交流基金アジアセンター

■クレジット

主催 | 三陸国際芸術推進委員会、国際交流基金アジアセンター、

NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

〈宮古〉NPO 法人いわてアートサポートセンター、(一部プログラム)宮古市、宮古市教育委員会、

宮古市郷土芸能団体連絡協議会、ヒガシ・デ・アエル準備事務局、三陸鉄道株式会社

共催 | 八戸市、宮古市、大船渡市、久慈市、階上町、岩泉町、大槌町、住田町、普代村、田野畑村、

(公社)全日本郷土芸能協会、三陸鉄道株式会社、NPO 法人いわてアートサポートセンター、

(一社)アーツグラウンド東北、みんなのしるし合同会社

助成 | 損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)

協力 | トヨタ自動車株式会社、NPO 法人震災リゲイン、東北文化財映像研究所、

NPO 法人地球対話ラボ、一般社団法人つむぎや、なつかしい未来創造株式会社、

宮古市国際交流協会、NPO 法人プラス・アーツ、シネマ・デ・アエル プロジェクト

〈宮古〉有限会社コンテンツ計画、三陸みらいシネマパートナーズ

〈大船渡〉大船渡市観光物産協会、大船渡市郷土芸能協会、キャッセン大船渡

〈三陸縦断プログラム〉大槌町郷土芸能保存団体連合会

協賛 | キーン・ジャパン合同会社、株式会社エイアンドエフ

特別協賛 | 〈宮古〉いわて文化振興プロジェクト(真如苑)

後援 | 岩手県、岩手県教育委員会、岩手日報社、東海新報社、デーリー東北新聞社、東奥日報社、

IBC 岩手放送、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、めんこいテレビ、八戸テレビ放送、青森テレビ、

青森朝日放送、エフエム岩手、FM ねまらいん、青森放送、エフエム青森、コミュニティラジオ局 BeFM

「三陸防災復興プロジェクト 2019 関連イベント」

■予算: 2127 万円

5. 「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス

コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール 2018

多文化、少子高齢化、貧困、引きこもりなど、様々な問題を抱える現代社会では、新たなコミュニティの場づくりがますます必要となってきた。ダンスのスキルを、初めて参加する者の立場に立ちナビゲートすることや、安全な場作りを行う事などの専門家としての学びの機会が少ない日本においては、このスクールは貴重な時間であると考え。一人で活動していると自信を失ったり迷いがちであるが、このスクールでそれを解決に導いたり、40 年来のイギリスの大先輩(講師)に背中を押されることで、各自がそれぞれの地域で活動を行う意義を再認識し、心を熱く燃やして旅立っていく。そうした一人一人のスクール生が、今後の社会に与えるインパクトは少なくないであろう。

<事業内容>

■コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール 2018

4 日間(プロコースは 2 日間)で、コースごとのクラスセッション、レクチャー、ワークショップ、トークを通じてファシリテーターとして必要なスキルを学ぶ。また公開講座として単発で受講できるレクチャー、事例報告プレゼンテーション、交流会の場を設けた。

- ◎日時: 2018 年 11 月 22 日~25 日 ◎会場: 森下スタジオ
- ◎講師: ダイアナ・アマズ(英国)、セシリア・マクファーレン(英国)
- ◎アドバイザー: アオキ裕キ、新井英夫、北村成美、隅地菜歩、マニシア
- ◎レクチャー・トーク ナビゲーター: 稲田奈緒美、佐東範一
- ◎受講生: ダンサー、振付家、俳優、教員、学生、研究者、ワークショップファシリテーター、福祉施設講師、看護師、運動療法士、保育士、リハビリアシスタント、生活介護職員、作業療法士
- ◎受講料: 【基礎】50,000 円(JCDN 会員 40,000 円) 【応用】40,000 円
【プロフェッショナル】20,000 円
【公開講座(一般参加)】1 講座 1,500 円 2 講座 3,000 円 3 講座 4,000 円
(JCDN 会員 1 講座 1000 円)

<関連企画1> ■ネットワークイベント 2019

「ボーダーを超える」をテーマに、スクール受講生同士の情報交換やスキルアップの場と同時に、受講生に関わらずコミュニティダンスに興味をもつ方とともに、課題の共有やネットワークの形成の場とする。また、コミュニティダンスの概念や社会意義を広める一助とする。

- A プログラム: レクチャーとディスカッション「障がいのある子どもたちとダンス」
- B プログラム: コミュニティダンスのワークショップ
- C プログラム: 異ジャンルのアーティストによるワークショップ
- D プログラム: スクール受講生の活動プレゼンテーション & グループトーク

- ◎日時: 2019 年 4 月 27 日~28 日 ◎会場: 新宿 NPO 協働推進センター
- ◎講師: 石川淳、中西麻友、稲田奈緒美、マニシア、北村成美、アオキ裕キ、隅地菜歩、新井英夫、中津川浩章
- ◎参加者: スクール受講生、一般参加者(ダンサー、アートコミュニケーター、NPO 職員、教員、打楽器奏者、作曲家、ワークショップデザイナー)
- ◎受講料: A プログラム 2,500 円、B/D プログラム各 2,000 円、C プログラム 3,000 円、B 通し 5,000 円
27 日通し 7,000 円、2 日間通し 10,000 円(スクール生のみ)

<関連企画 2> ■Big Family Tokyo(BFT)(関東のスクール受講生による団体)によるワークショップ

◎tagayaso〇〇×Big Family Tokyo 身体表現シリーズ 2019 年 4 月 7 日、5 月 6 日、5 月 26 日(全 3 回)
世田谷の空き家利用から生まれたタガヤセ大蔵デイを拠点にコミュニティ作りをおこなっている任意団体
料金: 4/7・5/26 1,000 円、5/6 1,500 円(材料費込) 参加者: 親子、主婦、会社員

- ◎多摩六都科学館 ダンス de カガク 2019 年 5 月 25 日(全 2 回 小学生対象、18 歳以上対象)
明治薬科大学セルフメディケーション学研究室とのコラボレーション企画
料金: 無料 参加者: 小学生、会社員、主婦、学生

- 主催: コミュニティダンス・アソシエーション・東京、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
- 共催: Big Family Tokyo、公益財団法人セゾン文化財団(関連企画除く)
- 助成: アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
- 予算: 252 万円

6. 「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス

東 風

こちかぜキッズダンス 5

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2018—

こちかぜ(東風)キッズダンスは、2014年6月、京都市東山区・東山いきいき市民活動センターを拠点にスタートした、周辺地域の子もたちとのコミュニティダンス・プロジェクトです。今年で継続5年目を迎えました。

今年初の試みは、メインプログラム前編から後編にかけて、年間を通じて公募で集まった子どもたちと三条学童保育所の子もたちが一緒にワークショップを行ったことです。前編は8月から計11回のワークショップを行い、毎年恒例となった東山三条地域のお祭り「三条まちづくりフェスタ2018」で成果を発表。後編は、12月から2月にかけて計7回のワークショップを行い、最終回を仮装ダンスパーティで締めくくりました。また、これまで子どものサポートに入っていたアシスタントメンバーが、今年はワークショップを少しづつ担当しました。他に、アウトリーチプログラムを2か所で行いました。

後期の初め頃、本プロジェクトにて、京都市による「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都是ぐくみ憲章)」のアクション賞を受賞しました。

<事業内容>

【メインプログラム】公募ワークショップ『いっしょに踊れば、みんなこちかぜ!』

◎期間:[前編]2018年8月~2018年11月(計11回) 平日16:30~17:30 土曜11:00~12:30

[後編]2018年12月~2019年2月(計7回) ※詳細は次ページ

◎ワークショップ会場:京都市東山いきいき市民活動センター 多目的ホール他

◎対象:京都市三条学童保育所の小学生(1年生~4年生)、近所の子もたち

公募参加者:4歳から小学6年生(経験問わず、だれでもOK!) 約45人

[前編]成果上演:「三条まちづくりフェスタ2018」11月4日(日)

[後編]最終回に、仮装ダンスパーティ

【アウトリーチ】

■京都市立東山開晴館 5組(育成学級)での1日ダンスワークショップ

2018年12月10日(月) 9:00~12:30 対象:5組(育成学級) 計20人

■京都市三条保育所での1日ダンスワークショップ

2018年12月13日(木) 10:00~11:00 対象:5歳児 計16人

【PHOTO DOCUMENT⑤、別冊報告書⑤の製作】

写真家によるワークショップの記録をフォトブックとして発行するほか、文書による報告書を製作。コミュニティダンスに関心をお持ちの方に参考資料としても活用。

◆こちかぜキッズダンス2018 プロジェクトメンバー

[ワークショップナビゲート・作・演出] セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

[美術・衣裳ワークショップナビゲート・アシスタント] 出川晋

[サポート・アシスタント] 千代その子・室田敬介・米澤百奈

[写真記録] 草本利枝 [制作協力] 小泉朝未

[企画・制作] 神前沙織(NPO法人JCDN) 岡本卓也・蔵田翔(京都市東山いきいき市民活動センター)

[主催] NPO法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)

[共催] 有限責任事業組合まちとしごと総合研究所(京都市東山いきいき市民活動センター 指定管理者)

[特別協力] 京都市三条学童保育所 岡崎先生、伊佐治先生、西本先生

■平成30年度京都府地域力再生プロジェクト支援事業 平成30年度子どもゆめ基金助成活動

■協賛:公益財団法人 京都オムロン地域協力基金、公益財団法人 京都新聞社会福祉事業団

■予算:130万円

7. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

平成30年度「文化芸術による子供の育成事業－コミュニケーション能力向上事業－」コーディネーター方式

大阪府堺市・沖縄県・滋賀県大津市の3地域 計9校にて実施。コーディネーター：神前・佐東(JCDN)

<実施内容>

実施月日	市区町村	実施校 (対象児童生徒数)	派遣芸術家 氏名	実施内容
11月15・27日・12月10・17日	大阪府堺市	堺市立浜寺小学校 (6年3クラス91名)	東野祥子	アーティストと担任教員の共同授業の形で進行。最終回に榎小との合同交流会を行う。
11月7・8日・12月3日	大阪府堺市	堺市立榎小学校 (5年3クラス118名)	セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)	アーティストと担任教員の共同授業の形で進行。最終回に浜寺小との合同交流会を行う。
1月10・11日・1月29日	大阪府堺市	堺市立八上小学校 (5年3クラス94名)	田中幸恵	アーティストと担任教員の共同授業の形で進行。最終回に学校内でショーイングを行う。
10月24日・11月29・30日	沖縄県	八重瀬町立新城小学校 (4年2クラス38名)	知花幸美	全3回を通して、様々な創作の方法を体験させる。
11月7・8・9日	沖縄県	豊見城町立伊良波小学校 (4年3クラス112名)	田畑真希	全3回を通して、様々な創作の方法を体験させる。最後に簡単なショーイングも行う。
11月12・13・14日	沖縄県	宮古島市立佐良浜中学校 (全校生徒48名)	マニシア	統廃合になる最後の年、全校生徒でひとつのダンスをつくり発表する。協力することを学びにする。
12月4・5・6日	沖縄県	竹富町立上原小学校 (1・2年31名)	知花幸美	全3回を通して、様々な創作の方法を体験させる。
1月9・16・28・30日	滋賀県大津市	滋賀大学教育学部附属特別支援学校 (小学部14名)	北村成美	後々踊りついていけるオリジナルな「附特ダンス」を児童が創作し、最終回に保護者向けに発表。
1月15・22日・2月1日	滋賀県大津市	大津市立志賀中学校 (1年5クラス173名)	東野祥子	アーティストと担任教員の共同授業の形で進行。最終回に学校内でショーイングを行う。

■平成30年度「文化芸術による子供の育成事業－コミュニケーション能力向上事業－」(文化庁)

■予算:382万円

<感想>

◎堺市立浜寺小学校(大阪府)

対象は昨年度もこの授業を体験した児童で、担任の先生も同じという初のケース。昨年度実施してみて、ダンスの授業が子供たちにとって大変意義深く、先生ご自身が授業を組み立てられるようになりたい、というご希望を打合せ時点からお聞きした。そこで、各担任の先生が授業をリードし、アーティストが補佐に回り、先生をサポートするという初めての試みを行った。先生方は、昨年の映像などを事前に細かく確認し、どのような進捗か、どこがポイントか、どのような言葉がけを行っているかなどを研究し、授業に挑まれた。結果は、十分に成立する授業となった。その中で、ダンサーの踊りを見せるなど、アーティストにしかできないこと、先生でも勉強したら出来ること、今後どのように出来るかなど、多くのことが先生方にとっても学びになった。また、浜寺小と榎小はどちらも2年目で堺の地元コーディネーター(堺市の教員で、榎小の先生)の計らいにより、4回目に合同発表会を実施。そこでも子供たちが自主的に、積極的に取り組む姿が印象的だった。

◎堺市立榎小学校(大阪府)

2年目の実施となるが、対象児童は初体験。2回目と3回目の授業の間が空いてしまうので、その間を各担任の先生が、どのようにその間の授業を行うかが大きな課題となった。各授業の報告、相談が出来るようにアーティストを含めたメーリングリストを作り、先生方からの相談を受け、それに対して、アーティストから返信、アドバイスを行った。メールだけでは収まらず、電話でも1時間以上先生と話しをするなど、アーティスト自身が「ここまで先生と密にダンスのことを話したことは初めて」というほど、共に授業を創る事業となった。このことによって、先生方のダンスの授業への取り組み方が大きく変化した。

◎堺市立八上小学校(大阪府)

浜寺、榎の取り組みを知った若手教員が自身もアーティストとの連携授業に取り組みたいと実施を希望された。特に1・2回目のアーティスト授業の後、3回目の最終回に向けて、作品の構成をどのように担任が授業でナビゲートしていくかについて、担任教員としっかり話し合った。複数紹介したどの素材を使ってもいいこと、素材によって仕上がりにばらつきがあるため、それぞれで選んでいい事、ソロとグループの素材を構成する方法やパターン、音楽や衣装、ステージについてなど。児童は、グループやクラスによってかなり色々で、最後まで創作ができるか心配なグループのいくつかあったが、最終回でその心配なグループが驚きのチームワークができていて成長を感じた。

◎八重瀬町立新城小学校(沖縄県)

授業1回目の振り返りで、恥ずかしがりの児童が多く、あまり動きが出てこない状態に対して、もっと練習をさせたほうがよいかと教員から質問を受ける。それに対して、正解を探す癖がある児童が多いと感じること。ダンスには正解も不正解もないということを伝えて、練習というより、今日やったことを普段の授業にも取り入れるなどの工夫をしてほしいとアドバイス。2回目、3回目になるにつれて、児童はどんどん解放されていく様子が見られた。言われた通り動くのはできても、自分で作る・表現するのが極端に苦手な子供達であったが、ダンスの授業で一皮むけた様子が印象的であった。

◎豊見城町立伊良波小学校(沖縄県)

初回から、心配されていたことがほとんどなく、クラスごとの違いはあっても全体的にはダンスに前向きに取り組もうとする様子がみられ、アーティストもどんどんワークを発展させることができた。担任教員からは、普段

おとなしい子どもほど前に出て動いていて驚いた。といった感想が毎回聞かれた。とにかく楽しそうに次々と繰り出されるお題に、自由に身体を動かしていく児童の様子が印象に残った。

◎宮古島市立佐良浜中学校(沖縄県)

来年統廃合が決まっている中学校で最後の全校生徒の取り組みとしてダンスを希望された。下見で感じた以上に、中学生の身体も心も硬くやや緊張している様子であったが、1日目終了後に教員交えて対策を話し合うことで、改善に向かっていった。難しい生徒が複数いるが、それぞれ個別に先生自身が指導に当たっている事、また、グループの中での進行をスムーズに行うため、開始直前にグループリーダーを集めてミーティングを行う事となる。ミーティングでは、ワークの進行の内容を伝え、協力してほしい、リーダーシップを取ってほしい事を伝えた。そうすることで、2日目はグループワークがずいぶんはかどった。最終日は心配していた男子がほぼ参加して全員でひとつのダンスを発表することができた。終了後は緊張から解放されたのか、いろいろな生徒が話しかけにきてくれた。

◎竹富町立上原小学校(沖縄県)

離島勤務の先生は着任して数年という若い方が多く、今回担当だった2名ともに20代前半。教師のあるべき姿をきちんと見せようとされ、努力される様子もうかがえたが、一方、児童が自由奔放に遊ぶ様子を気にしすぎるところもうかがえた。そうした点は、気にしすぎなくてよいこと、ダンスの時間は自由にしている、ただし人を傷つけることをしないなどのルールを守ってもらえるようにアドバイスした。児童はとにかく元気で人数も少なく、3日間生き生きと踊る姿を見せてくれた。

◎滋賀大学教育学部附属特別支援学校(滋賀県)

3日間でどうやって障がいのある児童とダンスを創っていくのか、その方法をはじめに教員から質問を受け、アーティストの創作方法を伝えて、入念に打ち合わせを行った。担当の先生自身がたいへん自由な発想の持ち主でアートの良さを理解し取り組もうとされていて、何事もスムーズに進行ができた。また、衣装創りや音楽もさることながら、教師全員でダンスに参加していただいた。子どもを補助するのではなく、ダンサーとして動いてほしいとアドバイス。初めのうちは日ごろの癖で、つい子どもを追いかけたり補助してしまう先生が多かったが、次第になくなっていった。皆で作り上げた「附特ダンス」は、授業後も担当の重田先生がしげやんの代わりにリーダーになり、何度も踊っているという。

◎大津市立志賀中学校(滋賀県)

堺の例も参考に、アーティストと先生の連携授業を実施した。1回目の終了後、あまり自由な動きが出てこない生徒が多いため、2回目までは今日やったことのおさらいと、とにかく生徒の身体を動かすことをメインにとアドバイス。2回目ですいぶん動けるようになる。その後、創作の進め方や方法、音楽のことを打ち合わせ。毎回の振り返りが終わると夜になるほど丁寧に行った。

教員の授業の間も、アーティストへの質問がメールで届くなど、先生自身が試行錯誤されることが志賀中だけではなく、堺でもあったが、この合同授業の方法はこれまで以上に教員とアーティストの間をつなぐ良い方法だと感じている。志賀中の場合も、もう一人の体育教師から振り返り事にたくさん質問を受けた。最後にわかった事は、「いつ電話しようかと思っていた。もっと悩んでいることを相談したかった。これからも電話してよいですか?」と聞かれるほど、悩みながら指導に当たっておられたこと。アーティストも我々も、ただアーティストの方法を紹介するだけでなく、体育の授業で活かしてほしいと望んでいる。いずれも、現在のところ教員の指導書には載っていない内容がほとんどであるからだ。今後もニーズがある限り提案していきたい。

京都府 文化を未来に伝える次世代育み事業「学校・アート・出会いプロジェクト」

京都府内の 計 2 校にて実施。コーディネーター：神前(JCDN)

<実施内容>

■実施校：伊根町立伊根小学校

■対象：全校児童 46 名 アーティスト：セレノグラフィカ

■スケジュール：

4 月 19・20 日 打合せ、体験ワークショップ、打合せ

4 月 27 日・5 月 8・9 日 創作ダンスワークショップ(計 3 回)

※5 月半ばの体育祭で発表するダンスを創作。

■実施校：綾部市立吉美小学校

■対象：5 年生 35 名、6 年生 41 名 アーティスト：東野祥子

■スケジュール：

6 月 7 日 打合せ

6 月 14 日・6 月 26 日 創作ダンスワークショップ(計 2 回)

※5 年生、6 年生それぞれに計 2 回のダンス体験授業を実施。

■京都府 文化を未来に伝える次世代育み事業「学校・アート・出会いプロジェクト」

■予算：各校 20－30 万以内

文部科学省「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」

信じがたい犯罪が毎日のように起きる中で、犯行に及んだ10代—20代の人物からは「昔から自分が嫌いだった」「ネット上で知り合った男と犯罪を犯した」という声が聞こえてきます。また、ダンスの授業で赴いた学校の先生から、不登校やいじめの問題も多く伺います。その背景には、子供たちの自己肯定感が低いことが要因のひとつになっていると聞きます。時代を担う児童青少年には、自分を認められなくなる、人を傷つけてしまう人生を歩む前に、自分を肯定し人生に希望をもてる体験をする事、そうしたチャンスに恵まれる事が、これまで以上に多く必要であることを実感します。

本プロジェクトでは、創作ダンスを用いた体験活動を行い、その効果を検証します。また、推進会議において、効果的な事業の検討を行うほか、創造的なダンスがもたらす「自己肯定感の向上」について、専門家を交えてディスカッションし、今後様々な現場で活用する方法と効果を報告書にまとめます。

■推進委員会メンバー

◎委員長：西田尚浩(公益財団法人 京都市ユースサービス協会 京都市東山青少年活動センター シニアユースワーカー) >元館長。長きにわたりダンスプロジェクトを実施。

◎委員：岡本卓也(京都市東山いきいき市民活動センター 館長)

>こちかぜキッズダンスの共同企画者。まちづくりの現場におけるファシリテーションを専門にする。

岡崎弘、西本翔馬(京都市三条学童保育所 所長・指導員)

>こちかぜキッズダンスの主な子どもが通う学童保育所の先生方。

隅地茉歩・阿比留修一／セレノグラフィカ (ダンスアーティスト)

>こちかぜキッズダンスのダンスの講師。他に全国各地で同様の体験活動の講師として活動。

藤川信夫(大阪大学大学院人間科学研究科 臨床教育学講座 教育人間学研究分野教授)

>教育人間学、教育哲学、教育思想史。ドイツ中学校教育におけるアートの活用に関する研究がある。

伊藤駿(NPO法人日本教育再興連盟(ROJE)スーパーバイザー、日本学術振興会 特別研究員)

>子ども・学校の課題解決を目指す各種支援プログラム、放課後学習活動の実施、教育社会学研究者 沼田里衣(大阪市立大学都市研究プラザテニユアトラック特任准教授、音遊びの会、おとあそび工房主宰)

>知的障害のあるひとびととの多様な音楽活動、音楽療法を継続実践、研究

内田桃子(一般社団法人桃李教育会 代表理事、大阪大学大学院人間科学研究科)

>コミュニケーション能力育成に特化した学習塾の運営、教育心理学系調査の統計分析担当

小石原智宏(京都府教員／伊根町立伊根小学校勤務)

>H30年度京都府「学校・アート・出会い」プロジェクトの実施校、担当教員

渡邊和也(大阪府堺市教員／堺市立浜寺小学校勤務)

>H29・30年度文部科学省「文化芸術による子供の育成事業」の実施校、担当教員

竹内香織(公益財団法人 京都市芸術文化協会 事業課長)

>京都芸術センターが実施する学校へのアーティスト派遣事業「ようこそアーティスト」を担当。

◎オブザーバー：倉谷誠(京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課)

>京都市「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」を推進係長として担当。

◎事務局：神前沙織(JCDN)

小泉朝未(大阪大学文学研究科)

>京都市「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」の調査・研究を担当。

<体験活動>

1) こちかぜキッズダンス(同和地区で実施するダンスのプロジェクト)

京都市東山区の東山三条地域を拠点に、地域の子どもを対象に2014年から継続するダンスのプロジェクト。2018年度は、地域の子どもの成長の機会として、参加者を一般公募し、地域内外の子ども同士の交流の機会を増やし成長を促すきっかけとした。

なお、本活動ではひとつの成果目標として地域のお祭りでの上演があるため、その衣裳や小道具などを子どもたち自身が創る美術ワークショップも行った。

◎対象年齢／4歳—小学4年生 約10名 会場：京都市東山いきいき市民活動センター

◎期間：8月から11月まで ※本番入れて計11回のワークショップ

※1回のワーク時間は45分～1時間半。前後に事前打ち合わせ・振り返りを行う。

◎メインアーティスト：セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一) 9回

◎美術 アーティスト：出川晋 1回

◎サポート・アーティスト：千代その子 ※メインアーティスト不在時のナビゲート 1回

◎アシスタントA・B：千代その子、出川晋、室田敬介、米澤百奈

A：ダンスワークショップにおいて主指導者の活動の補佐を行うほか、
振り返りの議事録作成など実務のサポート業務を行う。

B：ダンスワークショップにおいて主指導者の活動の補佐を行う

※1回のワークショップにつき、AB合わせて最大4名のアシスタントがつくシフト。

◎コーディネーター：神前沙織、小泉朝美、蔵田翔

2) 出張ダンスワークショップ

支援を必要とする児童青少年の集まりに出向き、普段の活動のひとつにダンスを取り入れる。

1、京都府警察 少年サポートセンター 体験活動

>>過去に非行に走ったほか周囲の環境などに問題を抱えたお子さんが、再び非行に走ることなくまたは問題を改善し、健やかに成長できるように、お子さんとその保護者をサポートする「わかばサポート活動」の体験活動にダンスを取り入れる。

◎日程：1回目／11月17日(土) 14:00-16:30

2回目／1月12日(土)14:00-16:30 計2回、他に職員向けワークショップ1回

◎アーティスト：東野祥子 アシスタント：佐々木健二郎

◎対象：わかばサポート活動登録者(3年生—高校3年生) 計6名+学生ボランティア 約12名

◎コーディネーター：神前沙織、他

◎オブザーバー：西田尚浩

2、児童養護施設「平安養育院」こども祭り

>>家で暮らすことが困難な児童が入所する当施設の1年に1回のお祭りで披露するステージに向けダンスワークショップを行った。衣裳は施設側がTシャツを用意し各々絵を描いた。

◎日程：9月20日体験1回 10月11日、18日、25日、11月1日ワークショップ4回

11月3日リハ 11月4日午後 公演(計7回)

◎アーティスト：康本雅子(ダンス) アシスタント：1名

◎対象：平安養育院入所児童青少年(5歳—13歳) 計13名

◎コーディネーター：神前沙織、小泉朝未

◎オブザーバー：倉谷誠

<推進会議>

話し合われた内容:

■創造的なダンスを用いて、子どもや青少年の自己肯定感を向上させることが、どのような可能性を持つのか、本プロジェクトの体験事業に位置付けている「こちかぜキッズダンス」の活動に関わる方々と、教育や芸術に関わる大学研究者、支援や教育の専門家実践家、学校教員を推進委員に招き、全3回の会議を行った。

■会議では、ダンスを通じた変化を多様に捉えるために、自己肯定感の向上を入りに子どもたちの抱える課題やダンスの特性と、これまでの活動実績から導かれるダンスの可能性について事務局から報告を行ったのち、各委員と次のテーマについて意見交換を行った。<評価の方法、自己肯定感とは何か、自己肯定感の向上が何をもたらすか、ダンスにおける自己肯定感向上の可能性、社会システムの中にどう取り入れ、活用していくか。>

■成果:多様なバックグラウンドを持つ教育や青少年関係の専門家が集い、自己肯定感向上をキーワードに意見交換を行えた。委員のうち数名はダンスを用いた体験事業の現場を知らない方もいたが、そもそも、芸術のジャンルの中でもダンスは音楽や美術、演劇に比べてまだほとんど普及していないという実情があるため、各委員にとっても各々の立場・経験からダンスの可能性を語るだけでなく、他の委員の話の踏まえて考えを深める機会となった。また、ダンスの専門家や実践家にとっても、ダンスと社会の接点、その多様な可能性、評価の方法について視野を広げる機会となった。

■これだけ多様な専門家が集う機会は当団体の長年の活動実績の中でも初めての事であり、ダンスの可能性を社会に還元していく事、具体的に社会システムの中に取り入れていく道筋を考える上で、たいへん重要なスタートを切る機会となった。どの委員もダンスの実践家を除き、ダンスそのものの専門ではないが、「自己肯定感向上」という目的に賛同し、そこから創造的なダンスがもたらす可能性に期待を寄せて委員会に参加されていた。

■また、教員や施設関係の方からは、各々の現場等で実際に経験されたダンスの取り組みと成果を報告された。それぞれの現場で行われているダンスの体験活動事例は、数はまだ多くないのが現状であるが、それぞれは貴重な報告であり、これらを報告書として活字化しまとめる事で、数値では測りきれない評価を確たるものとする資料になりうると考えている。私たちのこうした実践が子供たちの未来に少しでも還元されていく事が、次なる使命であると考えている。

課題:

■初めて出会う委員同士、自己紹介も必要であり、またひとつひとつの議題に対してたくさんの意見が提出されたが、それらを素材にさらに議論を深めるまでには、時間的に至らなかった。また、初めての取り組みであり4月入ってからのプロジェクトの立ち上げであったため公官庁の担当職員を招くのは難しかった。

■1年目の実績報告書をもって、今後こうした方々を委員に招いて議論を行いたい。また、今年度の体験活動の出張ダンスワークショップを実施した、少年サポートセンター(警察官)や平安養育院の職員(児童養護施設支援員)など、初めてダンスの現場に立ち会われた職員を次年度は委員に招き、本委員会会議をぜひとも継続したい。

■冒頭にも触れたように創造的なダンスはまだ一般的に周知されていない活動であるため、様々な体験談や成果事例を積み重ねていく事で、米粒のようなひとつひとつの実践が大きな動きにつながる契機になると考えている。

<アンケート調査と効果の検証> ※当事業の報告書を参照

■文部科学省 平成30年度「青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」自己肯定感向上プロジェクト」

■予算:120万円